

救急医学

科目責任者 和 氣 晃 司
学年 6 学年

I. 前 文

既に、3学年において16回の救急・集中治療医学の講義が行われている。しかし、その後に臨床実習を行っており、その経験をもとに知識の整理や再確認を行うことは有意義である。各専門診療科に分散している知識を統合し、より深く理解することが求められる。

II. 担当教員

教授 和 氣 晃 司 救急・集中治療医学
准教授 内 田 雅 俊 救急・集中治療医学
講師 菊 池 仁 救急・集中治療医学

III. 学修の到達目標

救急診療，集中治療，災害医療に必要な知識，技術を診療科の枠を超えて統合，理解する。

IV. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（60分）：3年生の救急・集中治療医学のまとめ的内容となるので，3年次の救急・集中治療医学の講義資料を確認しておくこと。

事後学習（40分）：講義後には講義資料を見直し，疑問点は教務課を通して担当教員に質問すること。

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション，ディベート 3：グループワーク 4：実習，フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他 空欄：該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	7	27	月	5	熱傷・意識障害と失神	菊 池 仁	1
2		29	水	5	救急・集中治療医学総論・災害医療	和 氣 晃 司	1
3		29	水	7	中毒・環境障害	内 田 雅 俊	1
4		30	木	7	外傷	和 氣 晃 司	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。（ ）内は評価の割合。

定期試験（100%）

VII. 医師国家試験出題基準（令和6年版）

必修-11-A-①～⑤， 11-C-②， ③， ⑭， ⑮， 11-D-①～②， 12-M-③～④

総論（I 保険医療論）-6-E-①～⑥， -6-F-①～⑤

総論（VII 診察）1-B-⑭～⑯

総論（IX 治療）10-A-⑪， ⑫， 10-D-⑤-⑦， 10-F-①～⑤， 10-G-①～⑤

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養, 利他の精神, 医師に求められる品格を身につけ, 豊かな人間性を育み, 他の医療者と協調して, 多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び, 情報・科学技術を活用して, 生涯にわたって自ら問題を発見し, 解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と, その中核を担う意味を理解できる	○
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し, 課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み, 医学・医療の進歩に貢献することができる	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

質疑は教務課を通して行うこと。